

<令和5年度 名東小学校の取り組みに関する学校評価のまとめ>

本校の教育活動を振り返り、改善を図ることを目的として、職員・保護者・児童を対象にアンケートを行いました。ご協力いただき、ありがとうございました。今回は、その結果と学校の考えをお伝えします。

【回答】 ①あてはまる ②どちらかというにあてはまる
③どちらかというにあてはまらない ④あてはまらない (%)

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
学校経営方針	(児) 楽しく学校に通っている。	71	23	5	1
	(職) 子どもたちが楽しく学校に通うことができるよう努めることができた。	50	50	0	0
	(保) お子さんは、楽しく学校に通っている。	60	36	3	1
(考察)	<p>職員の自己評価アンケートでは、子どもたちが楽しく学校に通うことができるよう努めてきたという回答が100%、保護者・児童のアンケートでも、肯定的な回答が90%を超える結果となりました。職員が一丸となり、子どもたちが楽しく通え、笑顔あふれる学校となるよう取り組んできた結果と考えます。一方で否定的な回答をした4～6%の子どもたち・保護者がいることは、課題です。本校における4～6%は、人数にして40～60人です。誰もが楽しく通えるようにきめ細かな指導が必要であると考えます。</p> <p>保護者の皆様の声では、「帰宅するなり、一日の出来事を話してくれます。担任の先生はもちろんのこと、校長先生や教頭先生、異学年の先生方まで話題に上がり、チームで温かく見守ってくださっていることがよく伝わってきます」や「とても楽しく学校に通えており全面的に安心できています」という声もいただきました。今後も子どもたちの笑顔あふれる学校となるよう取り組んでまいります。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
One Team 学校づくり 家庭・地域と連携した	(職) 保護者からの相談を真摯に受け止め、適切に対応することができた。	68	30	2	0
	(保) 学校は、子どもや保護者からの相談に適切に対応している。	35	59	6	0
	(職) 学校からの便り（学校、学年だより・ホームページ等）は、保護者に、必要な情報や子どもの姿を分かりやすく伝えている。	30	68	2	0
	(保) 学校は、ホームページ・各種たより・あんしんメール等で、学校の取り組みや子どもの様子を分かりやすく伝えている。	37	53	9	1
	(保) お子さんは、家で学校での様子をよく話している。	36	48	15	1
(考察)	<p>家庭・地域と連携した学校づくりについて、職員の自己評価アンケート・保護者アンケートともに、保護者の方からの相談に真摯に対応しているという肯定的な回答が90%を超える結果となりました。互いに相談をして、連携を取りながら、教育活動に取り組むことができていると考えます。</p> <p>学校ホームページについては、保護者の皆様の声の中に、「学校の様子がよりよく伝わるようにしてほしい」というご意見をいただいています。ホームページの掲載内容等を検討し、生かしていきたいと思えます。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
学校努力点 〈わくわく度〉	(児)★タブレットを使った学習は分かりやすい。	63	26	8	3
	(保)★お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。	28	59	11	2
	(児)★学校の授業は分かりやすい。	59	34	6	1
	(職)★なかまなビジョンを基に、タブレット端末やICTを効果的に活用して、分かりやすい授業を工夫することができた。	28	52	20	0
	(保)★学校は、タブレットやICTの効果的な活用等を通して、分かりやすい授業づくりや個に応じた指導に努めている。	21	56	18	5
(考察)	<p>令和5年度の学校努力点は「個別最適な学びを実現するための、タブレット端末の効果的な活用法の追求」というテーマで取り組んできました。職員は、授業後の時間を使って、タブレット端末の活用について学習会を行いました。様々な活用法を学び、分かりやすい授業とするためにタブレットの活用を進めてきた結果、児童アンケートでは、タブレットを使った学習は分かりやすいという肯定的な回答が約90%となりました。学習したことのまとめをプレゼンテーションソフトで作成して発表したり、苦手な学習分野をAIドリル(キュービナ)で復習したりするなど、個別最適な学びにつながっています。</p> <p>保護者の方からは、「もっと活用してほしい」、「1年生から始めるのはまだ早いと思います」といった様々なご意見もいただいています。これらの意見から、学校での活用の様子が伝わるよう、より一層の情宣をしていくとともに、子どもたちの実態を踏まえた活用を検討していくことが大切と考えます。これからの未来を担う子どもたちにとって、タブレットは、文房具のような存在になりつつあります。ICTの効果的な活用は、今後の教育では、必要であると考えます。</p> <p>学習者用タブレットの持ち帰りについては、本体の重量が重いことから子どもたちへの負担が課題となっていることがあります。タブレットを持ち帰ってもアプリの操作がうまくできず、家庭での学習がうまくできないという声もいただいています。タブレットの持ち帰りについては、今後も校内で検討を重ねていきます。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
学習面・読書指導 〈わくわく度〉	(児)すすんで学習している。	53	35	11	1
	(保)お子さんは、意欲的に学習に取り組んでいる。	29	55	15	1
	(児)家で学習をきちんとしている。	60	29	10	1
	(保)お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。	59	37	3	1
	(児)本を読んでいる。	55	23	15	7
(考察)	<p>保護者・児童アンケートともに、学習に意欲的に取り組んでいるという回答が80%を超えました。学習に対して進んで取り組める子どもが多いということは、本校の自慢すべき点です。また、家庭学習の習慣についても90%近くの肯定的な回答となりました。家庭学習の習慣は、学校からの声掛けだけでは、うまくいきません。家庭での声掛けや学習環境を整えていただいている表れだと考えます。</p> <p>一方で、読書についても肯定的な回答が高い割合を占めます。委員会の活動で、子どもたちが様々な本に出会えるように「ミッション読書」という取り組みを行ったり、図書館司書による本の紹介を行ったりしている成果かと思えます。しかし、「本を読んでいない」「あまり読んでいない」という回答も20%を超えています。小学生のうちに多くの本を読み、活字に触れることで、様々なことへの興味をもつ機会となると考えます。子どもたちの読書が活発となるよう、ご家庭でもご協力をお願いします。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
〈ほかほか度〉 あいさつ	(児)★進んであいさつをしている。	63	22	12	3
	(職)★子どもたちが、進んであいさつができるような指導に努めることができた。	48	45	7	0
	(保)★お子さんは、家や地域で進んであいさつができています。	20	52	26	2
(考察)	<p>児童アンケートでは、進んであいさつしているという回答が80%を超えています。今年度は、「名東すまあとデー」を設定して、毎月、あいさつの指導に取り組んできました。その成果が少しずつ表れていると考えます。保護者アンケートでも「所用で学校へ行った際に、教職員の方々や子どもたちからあいさつがたくさんあり、うれしく思いました」というご意見をいただきました。学校評議員会では、学区の方から、「名東すまあとデー」の取り組みについて、「あいさつ名人・達人・超人・鉄人は、家庭でも話題にすることで、子どもたちのあいさつの意識を高めることができ、よい取り組みである」との評価をいただきました。</p> <p>一方で、保護者の方から、「旗当番でこちらがあいさつをしてもあまり反応がなく、残念です」という声をいただきました。あいさつを元気よくすることができることは、子どもたちが社会に出ていくときに育っているとよい大切な資質と考えます。しかし、昨今の社会状況をふまえると、誰にでもあいさつをすることで、不審者への危機意識が薄れてしまうのではという考え方もあります。防犯の視点も大切にしながら指導に当たっていくとともに、家庭での声掛けも必要であると考えます。子どもたちが進んであいさつできるようになるためには、周りの大人が良き手本になれるようあいさつをすることと、粘り強く子どもたちに働き掛けていくことが大切であると考えます。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
生活面〈ほかほか度〉	(児) きまりや約束を守っている。	64	31	4	1
	(児) 友達となかよくしている。	82	15	2	1
	(職) 子どもたちが、きまりを守り友達と仲良く学校生活を送ることができるよう努めることができた。	55	45	0	0
	(保) お子さんは、友達と仲良くしている。	60	37	3	0
	(児) 係や当番、委員会の仕事を頑張っている。	75	22	3	0
	(児) クラスの子と協力している。	65	30	4	1
	(職) 子どもたちが主体的に行動できるよう、係活動や委員会活動を推進することができた。	48	52	0	0
(考察)	<p>子どもたちが友達と仲良く過ごせるように、教育活動を行ってきました。アンケートでは、どの項目も90%を超える肯定的な回答を得ることができました。学校グランドデザインにもある、「安心」を多くの子ども・保護者が感じており、信頼される学校になっていると感じます。</p> <p>また、係や当番活動、委員会活動にも子どもたちは、仲間と協力して意欲的に取り組んでいることが分かります。</p>				
安心・安全な居場所づくり〈ほかほか度〉	(児) ★教室にいると安心できる。	62	27	8	3
	(職) ★日々の学級指導、「名東すまあとデー」の取り組みや教育相談などを通して、子どもたちが安心・安全な居場所とを感じるような学校づくりに努めることができた。	48	48	4	0
	(保) ★学校は、「名東すまあとデー」やINGキャンペーン、心の教育等を通して、子どもが安心・安全な居場所とを感じるような学校づくりに努めている。	25	66	8	1
(考察)	<p>児童アンケートでは、安心できるとの回答が約90%という結果となりました。今年度は、7月より「名東すまあとデー」として、毎月第1火曜日にあいさつについてのめあてを子どもたちに伝え、目標に向かって取り組んできました。また、教育相談などを通して、子どもたちの声に職員は耳を傾け、子どもたちが安心して学校生活を送れるように取り組んできました。その成果が結果に表れたと感じます。</p> <p>しかし、一方で、「教室にいるとあまり安心できない」「安心できない」という回答をしている子どもたちが10%程度いることも忘れていません。誰もが、安心できる学校となるよう、あいさつの指導や相談しやすい環境づくりなどに努めていきます。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
体力向上 ↑いきいき度	(児) すすんで運動している。	63	22	12	3
	(児) 体育発表会や行事などに進んで参加している。	71	22	5	2
(考察)	<p>体力向上の点については、児童アンケートのみとなりますが、進んで運動しているとの回答が85%。否定的な回答が15%となりました。今年度も、運動場に仮設校舎が立ち、十分な運動スペースがなかったことで、子どもたちが休み時間に十分に体を動かすことができなかったことが原因の一つではないかと考えます。体育発表会などの行事には、90%以上の子どもが進んで参加していると回答していることから、子どもたちが伸び伸びと体を動かせる環境づくりにも努めていきたいと思えます。</p> <p>保護者アンケートでは、「文化的行事は、作品展以外に行うことはないのでしょうか」という声をいただきました。ここ数年は、コロナ禍であったこともあり、造形作品展が続いています。文化的行事の内容等については、今後も検討を進めてまいります。</p>				
各種訓練 ↑いきいき度	(職) 避難訓練・防犯訓練・交通安全教室等を通して、子どもが自らの命を守ることができるよう指導することができた。	53	40	5	2
	(保) 学校は、避難訓練・防犯訓練・交通安全教室等、子どもの命を守るための指導を適切に進めている。	48	49	3	0
(考察)	<p>各種訓練についても、90%を超える肯定的な回答となりました。名東小学校では、避難訓練を年4回、それぞれ異なる状況を想定して行っています。能登半島地震のこともあり、地震はいつ何時起こるか分かりません。子どもたち自身が身を守る術を身に付けるためにも避難訓練は欠かせません。防犯訓練・交通安全教室等は、近年は講話による訓練が中心でしたが、体験を伴う活動となるよう検討をしています。一人一人が、自分の命は自分で守ることができるよう各種訓練の充実を図ってまいります。</p>				

	内容 ★印は、今年度の重点項目に関連した内容	①	②	③	④
保健指導・食育指導	(児) 食事や安全に気を付けて過ごしている。	70	23	5	2
	(職) 養護教諭と連携し、病気やけがへの対応や保護者への連絡を適切に行うことができた。	65	35	0	0
	(職) 給食指導では、食物アレルギーへの対応を適切に進めることができた。	72	28	0	0
	(保) 学校は、子どものけがや病気、食物アレルギーなどに適切に対応している。	52	47	1	0
(考察)	保健指導・給食指導について、児童・職員・保護者ともに90%を超える肯定的な回答となりました。養護教諭だけでなく、学級担任を始め、多くの職員で、子どもたちのけがや病気に対し、真摯に対応してきました。今後も、子どもたちの安全を第一に教育活動を進めてまいります。				
その他	(保) お子さんは、家で掃除や手伝いなどを進んでしている。	15	44	34	7
	<p>保護者アンケートでは、ご家庭で、お子さんが掃除や手伝いを進んで行っていますかという質問に対して、あまりできていないという回答が40%を超える結果となりました。掃除の時間の子どもたちの様子を見てみると、雑巾をうまく絞れなかったり、掃除を面倒と感じて他ごとをしていたりする姿が見られることがあります。学校評議員会でも、学区の方から、「子どもたちが掃除を自分から行う姿が、コロナ禍もあって少し減っているように感じる。大人が指示をすることでできることも多いが、どこをどのように掃除するとよいか考えられるようになるとういと思います。また、掃除を何のために行うのかを意識させることも大切だと思います」というご意見をいただきました。</p> <p>学校でも清掃指導として、清掃道具の使い方を指導するとともに、清掃をなぜ行うのかも指導しています。基本は、「自分が使ったもの・場所は、自分で」という考え方が大切であると考えます。清掃活動は、皆で協力して行うという視点も含まれる大切な教育活動ですが、ご家庭でも、お子さんが自分で片付けをしたり、家族の一員としてお手伝いをしたりする場面をつくっていただくと、お子さんの成長へとつながります。</p>				